

### 第3回 新潟市域再生可能エネルギーゾーニング専門委員会 議事要旨

---

日 時： 令和4年1月17日（月） 午前10時～11時30分

場 所： 新潟市役所本庁舎執行部控室（ウェブ併用）

出席者： 新潟市域再生可能エネルギーゾーニング専門委員

五十嵐委員長、豊田副委員長、黒野委員、豊岡委員、千葉委員、中平委員、  
増田委員

オブザーバー

環境省関東地方環境事務所脱炭素チーム/地域循環共生圏構想推進室 丸山上席  
地域循環共生圏構想推進官、新潟県環境企画課地球環境対策室 土屋室長

新潟市 環境政策課清水課長、環境対策課小泉課長ほか4名

委託事業者 エヌシーイー株式会社 7名

傍聴者 2名

---

#### 【次第】

次第1 開会

次第2 議事

(1) 新潟市太陽光発電および陸上風力発電に係るゾーニング報告書（素案）について

次第3 その他

次第4 閉会

#### 【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 委員会名簿
- ・ 資料1 新潟市太陽光発電および陸上風力発電に係るゾーニング報告書（素案）
- ・ 資料2 新潟市太陽光発電および陸上風力発電に係るゾーニング報告書（素案）概要版

第3回 新潟市域再生可能エネルギーゾーニング専門委員会 <議事録：要旨>

発言者等	発言内容
<p>進行 五十嵐委員長</p>	<p>■ 1. 開会 ■ 2. 議事 (1) 新潟市太陽光発電および陸上風力発電に係るゾーニング報告書(素案)について 新潟市太陽光発電および陸上風力発電に係るゾーニング報告書(素案)について、委託業者のエヌシーイー株式会社よりご説明お願いいたします。</p>
<p>NCE(株)若尾 NCE(株)鈴木</p>	<p>《資料1について説明》  委員の皆様にご助言いただきたい点は、太陽光発電において農振農用地区域を配慮エリアとした妥当性について、発電ポテンシャルの算出方法の妥当性について、その他お気づきの点についてです。 よろしくをお願いいたします。</p>
<p>五十嵐委員長</p>	<p>それではご助言をいただきたいと思います。 説明のあった特にご助言いただきたい点、3点を中心にご助言をいただきたいと思います。</p>
<p>豊岡委員</p>	<p>ソーラーシェアリングが前提となると苦しい農業経営につながる懸念がある。耕作放棄地と優良農地をどう分けて取り扱うか整理が必要。 農家が利用しやすい、農家収入に結びつく太陽光発電は推進すべきで、耕作放棄地など設備導入が比較的容易な部分のルール化も議論が必要ではないか。</p>
<p>NCE(株)若尾</p>	<p>農業委員会のヒアリングでは、耕作放棄地に関しては農地転用をして活用してはどうかと意見をいただいています。耕作放棄地の取り扱いについては俯瞰した視点から、今後、農業関係者、地元も含めた関係者との調整を経て、より良いものにしていくことが必要だと考えております。</p>
<p>増田委員</p>	<p>稲作農地でのソーラーシェアリングは、畑作に比べて設備のコストや実作業の面で課題が多いと感じます。今一度、農業委員会と現実的な部分を含めて調整すると良いと思います。 農振農用地区域を太陽光発電の配慮エリアとすることは大賛成です。新潟の特徴でもあり、ぜひ進めていただきたい。 ワークショップで再生可能エネルギー導入に対する前向きな意見が多いと感じます。これを活かしていただきたい。 太陽光発電で反射光に関する記載をもっと手厚くした方が良い。恐らく、</p>

<p>NCE(株)若尾</p>	<p>騒音よりも反射光の方を市民は気にすると思います。</p> <p>稲作に対する配慮について、関係庁内で調整した上で必要な対応をとりたいと思います。</p> <p>太陽光発電の反射光について、表現等を見直します。</p>
<p>千葉委員</p>	<p>鳥類調査においてレーダーによる高さ補測が難しいとの記載がある一方で、鳥類の飛翔行動で「高くない」との記載もある。この点は疑問が無いような表現としていただきたい。また「大きく移動」はあいまいな表現で、具体的にどう大きいのか、妥当な表現とすべきです。</p> <p>鳥類の移動は気象の影響を受けやすい。調査時の気象情報も加えていただけるとより評価しやすい。</p>
<p>NCE(株)若尾</p>	<p>調査内容、評価の説明について、わかりやすく、区別しやすく、誤解されないように記載を見直します。</p> <p>調査時の気象情報についても追記します。</p>
<p>豊田委員</p>	<p>ワークショップ対象者の年齢構成も記載された方が良いと思います。</p> <p>また、ワークショップの結果で第2回目では「〇〇して欲しい」といった行政に対しての要望が中心になっていますが、3回目では「自分たちもこうしていきたい」という言葉になっていっています。これはエネルギーのことをみんなで解決していくには、すごく大きな意識の変化だと思いました。</p> <p>恐らく、合意形成の一番重要なところはゾーニングマップを活用したり、実際に再エネを導入するとき等、これから先だと思います。今回のワークショップのやり方を一つのモデルとして活用されたら良いと思いました。</p> <p>そういった点で、第3回のロールプレイのやり方をもう少し細かく書いてあると良いと思います。</p> <p>さらに、若い人たちがの方が再生可能エネルギーのことについての知識を豊富に持っているといったアンケート結果がありました。これからの世代の人たちは、そういった知識も持ちながら、主体的にいこうといった議論に参加していくような傾向が感じられました。とてもポテンシャルを感じるので、この点も報告書で触れられると、未来につながるゾーニング報告書になると思います。</p>
<p>NCE(株)若尾</p>	<p>ご指摘のような、モデル化、スタンダード化して、さらに市民との対話を続けるということは非常に重要なことだと考えております。そういった文章を活用の欄に設ける方向で検討を進めたいと思います。</p>

豊田委員	<p>そのようにしていただけると、未来につながるポテンシャルマップになると思います。</p>
中平委員	<p>発電設備の経年変化、劣化というのも大きな問題だと思います。目標設定や事業展開の中で、その経年変化によってどれくらいポテンシャルが落ちるかとか、そういった将来の見通しも市民に示す必要があると思いました。その点はいかがでしょうか。</p>
新潟市 小林室長	<p>2050年ゼロカーボンは、かなり先の話になりますので、経年劣化などの将来性についても目標設定の上では考慮していく必要があると考えています。</p>
中平委員	<p>別の機会で議論するという事でしょうか。</p>
新潟市 小林室長	<p>今回は導入に係るポテンシャルが論点です。その後、その発電がCO<sub>2</sub>削減にどれだけ寄与するかは次の段階の話になると考えています。</p>
五十嵐委員長	<p>製品のライフサイクルアセスメントも大事なことだと思います。当然、廃棄物としてどのように処理するか、その費用をどうやって負担するのかということも検討していくことが必要だと思います。</p>
黒野委員	<p>耕作放棄地も積極的に再エネを導入していくことは大事なことだと思います。ただその結果、農村風景が虫食い状に損なわれていくのは問題だと思います。水田を中心とした田園風景は新潟を代表する景観です。そういった点では畑に優先して導入した方が影響は比較的に少ないように感じます。そういった細かい工夫が必要かと思います。</p> <p>また、住居地などから100mの範囲を調整エリアとする記載がありますが、景観的に100mは範囲が小さすぎると感じています。</p>
NCE(株)若尾	<p>ご指摘を鑑みながら、よりもう少し細かく配慮すべきエリアや考え方、対策について記載して行きたいと思います。</p>
五十嵐委員長	<p>景観面からモザイク型で変な形での乱開発を防ぐことはその通りと思います。また水田は鳥類も採餌をしているわけですので、その点からも配慮が必要だと思います。</p> <p>風力発電に関しては定点カメラなどによりバードストライクなどの継続的なモニタリングを行うなどすると良いと考えています。</p>

中平委員	<p>ゾーニングマップで導入促進エリアが、太陽光発電と風力発電の両方が重なる、または近接する場合の複合的な影響についても検討した方が良いのではないのでしょうか。</p>
NCE(株)若尾	<p>双方のマップを重ねて、その課題については報告書に記載したいと思いません。</p>
増田委員	<p>ワークショップの対象者の年齢構成について、私も記載した方が良いと思います。</p> <p>農地の太陽光発電について、水田より畑を優先することは賛成です。市民もイメージしやすいと思います。また、遮光率上でも稲よりも野菜の方が制約は低いと思います。</p> <p>ソーラーパネルの寿命（劣化）については心配ありません。シリコン結晶は古くなっても再生することが可能です。新たに作るよりも経費が低いので、制度もそのようになっていくと思います。</p> <p>最後に、電力自給率が再生可能エネルギーの導入によってどう変わっていくのか、エネルギー安全保障の高まりを含めて、広く新潟市民に伝えるための頁を設け、若い人に夢を与えていただきたい。そこには新潟県の管轄かもしれないが洋上風力もぜひ付け加え、地域全体の電力自給率として示した方が良いと思います。</p>
豊岡委員	<p>太陽光発電の利用可能ポテンシャルについて、ソーラーシェアリングで504万kWと記載するのは反対です。</p> <p>耕作放棄地や畑地から導入を進めるのは妥当と思いますが、稲作地でのソーラーシェアリングは事業的にもハードルが高いと思います。これを一律に含めて504万kWをポテンシャルするのは非常に乱暴です。できるところを野立てで、効率が良く手間も簡単で利用率も高い野立てで再計算して欲しい。そしてそれをルール化して農家の利益に資する方策を取っていただきたい。</p> <p>また、洋上風力も新潟市民にとって大きな財産です。新潟市民が洋上風力についても意見が言えるルール化ができるよう、テーマに加えていただきたい。</p>
増田委員	<p>私も、ソーラーシェアリングで504万kWと記載するのは反対です。現実的にはあり得ないことを書くのは、市民の皆さんに誤ったメッセージを与えかねないので、是非とも見直しをお願いします。</p>

千葉委員	<p>今後、新潟市の若い世代へ、社会教育の一環として、今後の電力供給や導入の考えなど、伝えていただきたい。</p> <p>将来に繋げる方向性として、探らなければいけないんじゃないかと感じました。</p>
豊田委員	<p>マップがどういうふうに使われていくのかがすごく大切と思っています。</p> <p>例えば市民の方が「取り組んでみたいな」って思ったときに、「どうしたらいいのかわかるのか」というのが、この中には書かれていない。</p> <p>合意形成していくことはすごく大切になってくるので、プロセスというか、どういう可能性があるのかとか、これから再エネ事業をスタートしたい人たちに向けてのロードマップやフローチャートとか、わかりやすいステップみたいなものが示せると良いと思いました。</p>
NCE(榎若尾)	<p>おっしゃる通り、合意を図る、説明していく、共有するっていうところが非常に重要だと思います。報告書の中での記載を検討します。</p>
五十嵐委員長	<p>皆様方のご意見を入れてよりよいものになっていく過程、あとは市民の対話を取り入れながらやってきた、こういう流れは非常に素晴らしいと思っています。</p> <p>温暖化の問題、生物多様性の問題、経済も当然成り立たせていく、その三つを同時に成り立たせていく中で、必ずトレードオフが出てくる。</p> <p>社会的な構造も変え、そのトレードオフをなるべく減らしていきながら、全体の利益を向上させていく積極的なアプローチが必要だと思います。そのために、みんなで学習しながら行動変容して社会を変革していく、きっかけとなっていくことを私は期待しております。</p> <p>本当にそのトレードオフをいかに減らしていくのかがすごく重要で、海上風力発電のポテンシャルが高いのはよくわかりますが、あそこは良寛とか松尾芭蕉とか北原白秋が日本海佐渡に向けて詠んだ、そういう風光明媚な、景観上重要であることも考えていかなきゃいけない。雁カモがかなり沖合を通っていることもあります。</p> <p>ネイチャーに対してポジティブな影響を与えていくような政策が今後は必ず必要になると確信しております。</p> <p>3回にわたって、非常に素晴らしい意見をいただき、事務局の対応でより良いものができてきていると思っています。これを積極的に活用して、次のステップに進んでいければ良いと思っています。</p> <p>委員の皆様、ご意見、あるいは長い間の審議ありがとうございました。</p>

新潟市 小林室長	■ 3. その他 ■ 4. 閉会
-------------	---------------------